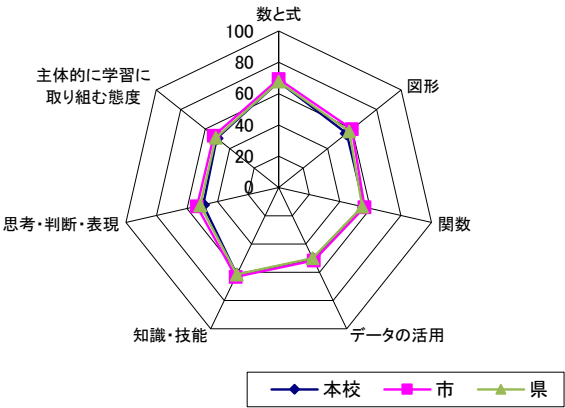


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.6	69.3	67.7
	図形	55.6	59.8	57.7
	関数	56.0	56.2	54.7
	データの活用	50.5	51.6	49.9
観点	知識・技能	61.7	63.2	61.5
	思考・判断・表現	49.4	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	50.5	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均より0.1ポイント下回っている。 ○1次方程式の問題では、移項を要しない方程式は9割近くの正答率が見られ、移項を要する方程式についても8割近い正答率が見られ県の平均より6ポイント上回っている。 ●比例式を解く問題では、県の平均を5.7ポイント下回っている。	・基本的な計算について小テストなどを繰り返し行い、正確に解ける能力を身につける。また、言葉の意味や計算ルールについて授業で出てきたときや定期テストで出題し、確実に定着を図る。
図形	県平均より2.1ポイント下回っていて、4領域の中で最も低い。 ○対称移動について8割以上の生徒が理解している。 ●平面図形の回転移動の説明ができず、県の平均よりも10ポイント低い。また空間図形の体積や表面積を求めることができず、6ポイント下回っている。	・空間図形の表面積や体積の求め方について、実力テスト実施後などに図形の問題についての公式の確認をして基本的な知識を定着させるために、繰り返し学習する。
関数	県平均より1.3ポイント上回っている。 ○比例の関係でのx、yの値の変化の理解について、県平均を10.5ポイント上回っている。 ●関数についての理解について、県平均を6.4ポイント下回っている。	・1次関数を学習する際に、関数についての理解を確認し、比例と反比例について授業内で関係性を確認する。 ・グラフを読み取るときに生徒の気づきを大切に、発見させる授業を行っていく。 ・日常生活の中での関数を紹介し、生徒の興味・関心を高める。
データの活用	県平均より0.6ポイント下回っている。 ○累積度数についての理解が深まっていて、県の平均よりも7.2ポイント高い。 ●2つの度数折れ線からの傾向の読み取りについて、県の平均を5ポイント下回っている。	・データの比較の単元で、中央値や最頻値など、用語の確認や資料の見方について復習し、2年生の四分位範囲や箱ひげ図の定着を図る。 ・身の回りの資料を活用する良さについて、分析しながら、感じさせ、生徒の興味・関心を高める